

根室市管内のコンブ礁調査から

◇根室市管内は根室、歯舞、落石漁協に広いコンブ地帯があつて、毎年市役所が中心になり、全般の調査を行つております。水試もこの調査に協力して去る七月七日から十三日まで歯舞、温根元、花咲、根室の投石、ブロック、岩爆および天然礁のコンブ生育状況を調べました。詳細については別に報告しますが、二、三気のついた点を説明してみたいと思ひます。

◇歯舞

歯舞地先のコンブはナガ、アツバ共に例年と特に目立つた差はないようです。全般的には生育が良いが、深い所には少ないと云うことでした。イソモシリ島内側、フラリ、友知などの投石、岩爆地帯は、一年、二年コンブともに良好な着生で、生長も良いようです。一般に水深四、五米の岩盤に浅く砂をかぶつたような所に投石したものの成績が良いようです。このことは、第二貝殻礁のブロックについてと同様で、浅い所はナガの良い地帯に

なつておりますが、六一七米の深い所では着生していても生長がかなりおそいようです。また相変らずコンブの傷みはげしいようです。着生本数は当初の頃より少なくなつております。これは天然自然の現象で、何年も着生量を同じように維持させることは大変むづかしいことを表わしております。

◇花咲

花咲燈台下の砂地の投石材は、以前は全部埋没して、効果がないと云われたこともあつたようですが、ここ二、三年は砂から頭を出した投石材に非常に立派なアツバコンブが着生するようになり、良い効果をあげています。石が砂に埋まることは一般に適地の選定が悪いと云うことで、効果のあがない悪い例の一つとなつていますが、このように一度埋まつた石が再び顔を出すようになる、以前に着生していた雑藻もすつかりとれてしまい、かえつて天然の磯掃除によつて再びコンブが着生するようになることもあるわけです。ただ

し、このような場所では、またいつかは砂に埋まるということもあり得るわけです。要するにコンブの胞子放出から幼体伸長期にかけて砂から石が顔を出していることが大切です。現在使われている円筒形ブロックは、このような場所に有効なように設計されたものでしょう。しかし、現状では自然石でも効果は十分あがつておりますし、若しブロックを入れるとしても、投入密度を思い切つて小さくして、着生コンブの生長に害にならないよう、特に葉体の傷みには注意しなければなりません。

ユルリ島のトド岩附近のブロック(四〇年)投入地点は、かなり波の荒い所で、附近にはナガコンブの天然礁がありますが、ブロックにはコンブはおろか、雑藻もみられません。潜水夫の話ではブロックはほとんど瀬をはづれた深みにおちて、かたまつてはいるらしく、近くにはネコアシコンブが多いと云うことでも、このことが推察されます。この場所は海底の様子をよく調べる必要がありますが、荒天で良く調査できませんでした。しかし、いづれにしても事業を行うには非常にむづかしい場所であることが想像されます。ブロックや石材投入よりも、若し雑藻の多い所

があつてコンブ着生面を狭くしているならば、岩爆などの方が良いかも知れません。

◇根室湾

根室地先はいわゆる湾内コンブ（リシリ系エナガオニコンブ）地帯を調査しましたが、今回の調査で臼田浜のブロック（四七年）や石材（三九年）も大変良い成績をあげていることを知りました。その他二冷前、ベニクムイなども例年とあまり大差はないようで、特にベニクムイは全般的に良質のコンブが多かつたように思います。しかしスガモヤホンダワラ類も多くて、むしろこれらの駆除対策が望まれるところです。根室地先はブロックでも自然石でも効果はあまり変らないようですが、一般に砂地がありませんので自然石でも効果は十分にあげられるようです。これと同じような温根元のバフラ地帯もブロックよりは自然石を投入した方が、コンブの傷みも少なく、良いのではないかと思われまます。

なお潜水して石材を引き上げたかぎりでは効果が良くとも、実際にこれを十分に利用しなければ真の増殖効果があるとは申されません。増殖事業個所での実際の作業結果について、組合ごとに自主的な記録をとつていただくようお願いいたします。